

- For more records, click the Records link at page end.
- To change the format of selected records, select format and click Display Selected.
- To print/save clean copies of selected records from browser click Print/Save Selected.
- To have records sent as hardcopy or via email, click Send Results.

Select All
 Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format
 Display Selected
 Free

1. 1/5/1 DIALOG(R)File 352:Derwent WPI (c) 2007 The Thomson Corporation. All rts. reserv.

0013017795

WPI Acc no: 2003-096409/200309

XRAM Acc no: C2003-024475

Oil-like cleansing-cream cosmetics, contains dibranched fatty-acid polyethylene glycol, oil component and water, and has specified water content

Patent Assignee: SHISEIDO CO LTD (SHIS)

Inventor: NAKAMURA A; UCHIKAWA K

Patent Family (.1 patents, 1 countries)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 2002241224	A	20020828	JP 200138398		A	20010215	200309

Priority Applications (no., kind, date): JP 200138398 A 20010215

Patent Details

Patent Number	Kind	Ln	Pgs	Draw	Filing Notes
JP 2002241224	A	JA	4	0	

Alerting Abstract JP A

NOVELTY - Oil-like cleansing-cream cosmetics contains dibranched fatty-acid polyethylene glycol, oil component and water, and has water content of 2.1 mass% or more.

USE - As cleansing cream.

ADVANTAGE - Since the cosmetics has high water content, it provides excellent refreshing feeling and cleansing action to skin. The cosmetics has excellent storage stability, transparent appearance and is easy to coat.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: OIL; CLEAN; CREAM; COSMETIC; CONTAIN; FATTY; ACID; POLYETHYLENE; GLYCOL; COMPONENT; WATER; SPECIFIED; CONTENT

Class Codes

International Patent Classification

IPC	Class Level	Scope	Position	Status	Version Date
A61K-007/02			Main		"Version 7"

File Segment: CPI

DWPI Class: A96; D21

Manual Codes (CPI/A-N): A10-E07; A12-V04C; D08-B01

Derwent WPI (Dialog® File 352) (c) 2007 The Thomson Corporation. All rights reserved.

Select All
 Clear Selections

Print/Save Selected

Send Results

Format
 Display Selected
 Free

© 2007 Dialog, a Thomson business

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-241224

(P2002-241224A)

(43)公開日 平成14年8月28日 (2002.8.28)

(51)Int.Cl.

A 61 K 7/02

識別記号

F I

A 61 K 7/02

テーマコード(参考)

A 4 C 0 8 3

審査請求 未請求 請求項の数 6 OL (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2001-38398(P2001-38398)

(22)出願日 平成13年2月15日 (2001.2.15)

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 中村 新

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株
式会社資生堂リサーチセンター(新横浜)
内

(72)発明者 内川 恵一

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株
式会社資生堂リサーチセンター(新横浜)
内

(74)代理人 100094570

弁理士 ▲高▼野 俊彦

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 オイル状クレンジング化粧料

(57)【要約】

【課題】 オイル状クレンジング化粧料において、さつ
ぱり感を有する化粧料を提供すること。

【解決手段】 ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールと
油分と水とを含有し、水の含有量が2.1質量%以上で
あるオイル状クレンジング化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールと油分と水とを含有し、水の含有量が2.1質量%以上であるオイル状クレンジング化粧料。

【請求項2】 前記ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールがジイソステアリン酸ポリエチレングリコールである上記のオイル状クレンジング化粧料。

【請求項3】 ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールのエチレングリコール数が1～15である請求項1または2記載のオイル状クレンジング化粧料。

【請求項4】 ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールの含有量が7～30質量%である請求項1、2または3記載のオイル状クレンジング化粧料。

【請求項5】 ラウリン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、若しくはこれらの塩を含有する請求項1、2、3または4記載のオイル状クレンジング化粧料。

【請求項6】 ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールのHLBが4～9である請求項1、2、3、4または5記載のオイル状クレンジング化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はオイル状クレンジング化粧料に関する。さらに詳しくは、さっぱり感に優れ、さらにクレンジング効果、洗い流しやすさ、塗布のし易さ、保存安定性に優れたオイル状クレンジング化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 オイル状液体クレンジング化粧料は、基剤の大半が油分であるため、使用感が油っぽくなり、洗浄力が極めて高く安全な洗顔料であるにも拘わらず、好んで使用する人が多くはないという現状がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 これに対して、さっぱりした使用感を発揮させるため、粘性の低い油分を中心に配合するとクレンジング化粧料自体の粘性も低くなり、手の平にとり顔に塗布する際に指の間や手の平から容易にこぼれ落ち、その取り扱いに不都合な面があつた。

【0004】 本発明は上記課題に鑑みてなされたものであり、油っぽくなくさっぱりした使用感を有し、粘性の低い油分を使用する必要がないため指からのたれ落ちを抑え塗布しやすく、かつ、クレンジング効果、洗浄後の洗い流しやすさ、保存安定性に優れたオイル状クレンジング化粧料を提供するものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は下記の通りである。

(1) ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールと油分と水とを含有し、水の含有量が2.1質量%以上であるオイル状クレンジング化粧料。

(2) 前記ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールがジイソステアリン酸ポリエチレングリコールである上記のオイル状クレンジング化粧料。

(3) ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールのエチレングリコール数が1～15である上記のオイル状クレンジング化粧料。

(4) ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールの含有量が7～30質量%である上記のオイル状クレンジング化粧料。

10 (5) ラウリン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、若しくはこれらの塩を含有する上記のオイル状クレンジング化粧料。

(6) ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールのHLBが4～9である上記のオイル状クレンジング化粧料。

【0006】

【発明の実施の形態】 以下、本発明を詳述する。

【0007】 本発明のオイル状クレンジング化粧料は、室温(20℃)で液状の油を含む油性成分と、非イオン性界面活性剤と、水とを少なくとも含むもので、室温

20 (25℃)で液状を呈している油状液体クレンジング化粧料である。

【0008】 従来、上記のオイル状クレンジング化粧料において、水を2重量%まで配合したものが存在するが(特許第2977568号公報)、使用時にさっぱり感を発揮する効果は極めて低い。

【0009】 本発明は、多くの処方について鋭意研究した結果、非イオン界面活性剤にジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールを使用すると、驚くべきことに処方中の水を従来の常識より多量に安定配合することが可能とな

30 り、優れたさっぱり感を発揮させることができると同時に、さっぱり感を確保するために粘性の低い油分を使用する必要がないため適度な粘性を有し塗布しやすく、かつ、洗浄後も洗い流しやすく、クレンジング効果も落ちることがないという当業者にして予測不可能な効果を見出した結果完成された発明である。

【0010】 さらに、ラウリン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、あるいはこれらの塩を配合すると、驚くべきことに透明を維持できる低温領域を広げることが可能となり、低温にて保存されても外観の透明性を維持できる好ましいオイル状クレンジング化粧料を提供可能となる。

【0011】 本発明に用いるジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールは、ジイソステアリン酸ポリエチレングリコールが好ましく、さらにエチレングリコール数が1～15のものが好ましい。ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールのHLBは4以上が好ましい。HLBはGriffinにより求まる数値である(W. C. Griffi. n : J. Soc. Cosmet. S., 5, 249 (1954))。二種以上のジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールを組み合せて使用することもできる。ポリエチレン

グリコール数が16以上の場合、若しくはHLBが9を超える場合には白濁する場合がある。

【0012】分岐脂肪酸ポリエチレングリコールの配合量は7~30質量%が好ましく、さらに好ましくは8~28質量%である。30質量%を超えると白濁若しくはゲル状になる場合がある。

【0013】本発明においては、分岐脂肪酸ポリエチレングリコール以外の界面活性剤の併用も可能である。この場合、界面活性剤全量に対して分岐脂肪酸ポリエチレングリコールが50質量%を超えることが好ましい。また、界面活性剤全体としてのHLBも9を超えないように選定される。

【0014】本発明に用いる油分は、例えば、流動パラフィン、合成パラフィン、スクワラン、イソプロピルミリステート、オクタン酸セチル、植物油（オリーブ油等）、高級アルコール（イソステアリルアルコール）、シリコーン油（ジメチコーン等）を挙げることができる。好ましい油分は、流動パラフィン、オクタン酸セチルである。

【0015】油分の配合量は通常67.9~90.9質量%、好ましくは64~89.9質量%である。

【0016】本発明に用いる水は、水道水、イオン交換水、蒸留水、ミネラル水、深層水、海水、温泉水等を用いることができる。

【0017】水の配合量は2.1~10質量%が好ましく、さらに好ましくは、2.1~8質量%である。2.1質量%未満であるとさっぱり感に乏しい。

【0018】本発明においては、ラウリン酸、オレイン酸、イソステアリン酸、あるいはこれらの塩（例えば、ナトリウム塩、カリウム塩など）を配合すると、低温領域でさらに好ましい透明な外観が得られる。配合量は特

に限定されないが0.5~1.5質量%程度でよい。

【0019】本発明のオイル状クレンジング化粧料は、上記必須成分の分岐脂肪酸ポリエチレングリコールと油分と水とを攪拌して調製することができるが、化粧料に配合可能な成分を本発明の効果を損なわない範囲内にて配合することが出来る。

【0020】本発明は主として洗顔を目的とした化粧料であるが、マッサージ化粧料としても好ましく使用できる。

10 【0021】

【実施例】次に実施例によって更に具体的に説明する。本発明は以下の実施例のみに限定されない。配合量は質量%である。

【0022】表1及び表2に示す处方で液状クレンジングを製造し、下記の試験を行った。

（製造方法）油性原料を均一に混合溶解し、その中に精製水溶液を攪拌混合し油状クレンジングを得た。

（1）保存安定性試験

試料を-5℃、0℃、5℃、45℃の恒温槽に入れ、4週間後の状態を観察した。外観の透明性および分離の有無を肉眼で判定し、下記の基準で評価した。

○：透明性があり、分離しなかった。

×：透明性が十分でない、若しくは2層に分離した。

（2）官能試験

パネル10人により、①ファンデーションの落し易さと、②洗い流し後のさっぱり感について判定した。それぞれ、「落し易い」、「さっぱりする」と答えた人数を示した。

【0023】

30 【表1】

サンプルNo	比較例	実施例						
		1	2	3	4	5	6	7
HLB	4	4	6.3	6.3	4.7	8.0	9.0	9.0
精製水	1	2.1	8	10	5	5	8	10
POE(3)ジイソステアレート					3			
POE(4)ジイソステアレート					3			
POE(6)ジイソステアレート	7	7			3			
POE(8)ジイソステアレート			10	10	3	2		
POE(12)ジイソステアレート			20	20	3	10		
POE(16)ジイソステアレート					3		30	30
POE(10)イソステアレート						8		
流動パラフィン			62	60	77	75	62	60
オクタン酸セチル	30	30						
オリーブ油	62	60.8						
外観*1	×	○	○	×	○	○	○	×
①落し易さ	5	7	10	10	10	5	10	2
②さっぱり感	2	6	10	10	10	10	10	8

* 1 外観：5℃及び45℃の恒温層保存品を判定した。
どちらかの保存品で上記基準に該当する試料がある場合
を×とした。

【0024】
【表2】

サンプルNo	実施例				
	8	9	10	11	12
HLB	6.3	6.3	8.6	9.0	9.0
精製水	10	10	5	8	8
イソステアリン酸			1		
オレイン酸カリウム		1.5			
イソステアリン酸ナトリウム					0.5
POE(8)ジイソステアレート	10	10	2		
POE(12)ジイソステアレート	20	20	10		
POE(16)ジイソステアレート				30	30
POE(10)イソステアレート			10		
流動パラフィン オクタン酸セチル オリーブ油	60	58.5	74	62	61.5
外観 *1 0℃ -5℃	×	○	○	○	○
①落し易さ	10	10	10	10	10
②さっぱり感	10	10	10	10	10

* 1 外観：0℃、-5℃の恒温層保存品で判定した。

【0025】上記実施例のクレンジング化粧料は適度な粘性を有し、塗布しやすいものである。

【0026】

【発明の効果】本発明のオイル状クレンジング化粧料

は、ジ分岐脂肪酸ポリエチレングリコールを配合することにより水分を多量に配合することができ、従来のオイル状クレンジング化粧料の課題であったさっぱり感を十分に発揮させることができる。また、クレンジング効果、保存安定性、透明外観の点においても優れている。

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA122 AB051 AC022 AC241
AC251 AC252 AC261 AC262
AC342 AC401 AC402 BB11
CC23 EB05